

氏名	木 山 敏
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	甲 第 4 1 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和36年 3 月31日
学 位 授 与 の 要 件	医学研究科外科系外科学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学 位 論 文 題 目	エールリッヒ腹水腫瘍の異種移植に関する 内分泌学的研究
論 文 審 査 委 員	教授 砂 田 輝 武 教授 陣内伝之助 教授 浜 崎 幸 雄

学 位 論 文 内 容 要 旨

第1篇は内分泌諸臓器剔出がエールリッヒ腹水腫瘍のラッテへの異種移植に及ぼす影響について述べた。正常ラッテでは移植腫瘍細胞は全く増殖しないか又はまれに増殖傾向を示しても短時日で退行変性におちいる。脳下垂体、副腎、卵巢などの剔出例では腫瘍増殖はみられない。睾丸剔出を施した場合は腹水腫瘍は著明に増殖し、腹腔内腫瘤形成、転移浸潤を来し、腫瘍死をみる。第2篇はエールリッヒ腹水腫瘍の異種移植に及ぼすホルモン剤の影響について述べ、とくにコーチゾン、エストロゲンは異種移植促進的に、アンドロゲンは抑制的に働くことを明にした。第3篇は睾丸剔出ラッテへのエールリッヒ腹水腫瘍の累代移植を試み、25代に及び中止したが各代とも著明な腹水腫瘍増殖及び腹腔内腫瘤形成を認め腫瘍死をみた。

論文審査の結果の要旨

木山徹提出の「エールリッヒ腹水腫瘍の異種移植に関する内分泌学的研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は次の通りである。

腫瘍の異種移植は極めて困難なものとされており、ことにエールリッヒ腹水腫瘍のラッテへの異種移植については全く先人の報告をみないのであるが、著者はこの異種移植に成功したのである。即ち第1篇は内分泌諸臓器を剔出してエールリッヒ腹水腫瘍のラッテへの異種移植に及ぼす影響を述べ、正常ラッテでは移植腫瘍細胞は全く増殖しないか又はまれに増殖傾向を示しても短時日で退行変性におちいり、脳下垂体、副腎、卵巢などの剔出例でも腫瘍増殖はみられないが、睾丸剔出を施した場合は腹水腫瘍は著明に増殖し腹腔内腫瘍の形成、転移侵潤を来し、腫瘍死をみる。第2篇はエールリッヒ腹水腫瘍の異種移植に及ぼすホルモン剤の影響について述べ、とくにコーチゾン、エストロゲンは異種移植促進的に、アンドロゲンは抑制的に働くことを明らかにした。第3篇は睾丸剔出ラッテへのエールリッヒ腹水腫瘍の累代移植を試み25代に及び中止したが、各代とも著明な腹水腫瘍増殖及び腹腔内腫瘍形成を認め腫瘍死をみ、又戻し移植にも成功したことを述べ異種移植の成功を間接的に証明した。

以上の通り本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。